

# 三月例会御案内 (平成二十三年)

○ 御案内

## 時代を刷新する会

日時 三月八日(火) 正午〜二時半 衆議院第一議員会館地下一階・第五会議室(二九八回)

講題 帝國陸軍と神代の自衛隊!

講師 坂梨靖彦先生(戦略研究家、京都帝大卒、元陸軍主計少尉・航空自衛隊空将補)

皆さん、御承知のように、坂梨会員は、最も古くからの会員で、論客であり戦略研究家です。その坂梨会員が、昔からある月刊誌「軍事研究」の本年一月号からずっと、『ある自衛官の回想——神代の自衛隊(警察予備隊裏面史)』と題した体験談を連載されております。

その御経歴は、旧制松山高等学校在学中に陸軍に入隊して戦争末期の悲惨さを体験され、そして戦後混乱期に苦勞された上、昭和二十五年、朝鮮戦争の中で誕生した警察予備隊へ入隊。それが、保安隊から自衛隊へと発展する、その全体験を連載しておられるものです。まだ連載途中ですが、拜読すると、まさに日本国の大激動期を体験されたわけで、特に、警察予備隊から保安隊を経て自衛隊が出来るまでの生き証人といえ、その内容は歴史的証言と言っても過言ではありませんので、お話いただくことにいたしました。奮っての御参加お待ち申し上げます。(清原記)

◎ 当日の会費 四千元(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきたく)

□ 御報告

去る二月十日の月例講話会は、自民政権時代ばかりではなく、いまの民主党政権下でも、派閥・権力闘争が激しく、日本が財政・経済、安全保障面でも、深刻な事態にあるのにかがなものか、と国民も憂えている折から、読売新聞政治部記者として主要派閥や自民党を担当し、読売新聞解説部長・論説委員・編集局次長を務められ、現在、政治評論家として活躍しておられる高橋利行先生に、「派閥・権力闘争の実情と対策!」と題して、御講話いただきました。その要旨は、政党の対立、権力闘争は戦前からあった。政友会と憲政会が対立し、高橋是清内閣から林銑十郎内閣まで十数年は、一年足らず精々二年足らずの内閣であった。そして、大東亜戦争へと進んでゆく。戦後、小泉内閣のあと一年程度の内閣が続いているのは心配である。

日本の政党政治はヨーロッパのそれとは異質であり、真の政党政治と言えないように思う。いま問題の小沢一郎は、派閥政治の是正を唱え、中選挙区制を小選挙区制に変えたが、その後、小沢派が最大の派閥を擁しているのは皮肉な現象である。菅内閣は、小沢を排除してなんとか政権を維持しようとしているが、予算関連法案が通る見込みもない。仮に公明党や社民党を抱き込んで何もしない。また、解散しても、民主党も自民党も過半数を取ることができず、より混乱するだろう。衆参ねじれ現象から、憲法を改正して、参議院の構造を替える必要がある等々、御提案があり、その後の質疑応答も大層盛んでした。

▽ 当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正二郎元財務大臣は、昨年七月、九十歳を機に辞任され、現在は、江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任している。理事長は、平成十四年から半田晴久が就任しております。毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、医療福祉部会など八つの部会と、環境技術委員会、新エネルギー委員会などの委員会があり、これまでに、政府へ一三四本に及ぶ要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

▼ お知り合いで、こうした志のある方をお誘い下さい。(年会費は一口一万円)

事務局電話(03) 3272-4320 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、当事務局まで、御返信をいただきたく。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

三月八日(火) 出 欠(いずれか○)

衆議院第一議員会館・地下一階・第五会議室